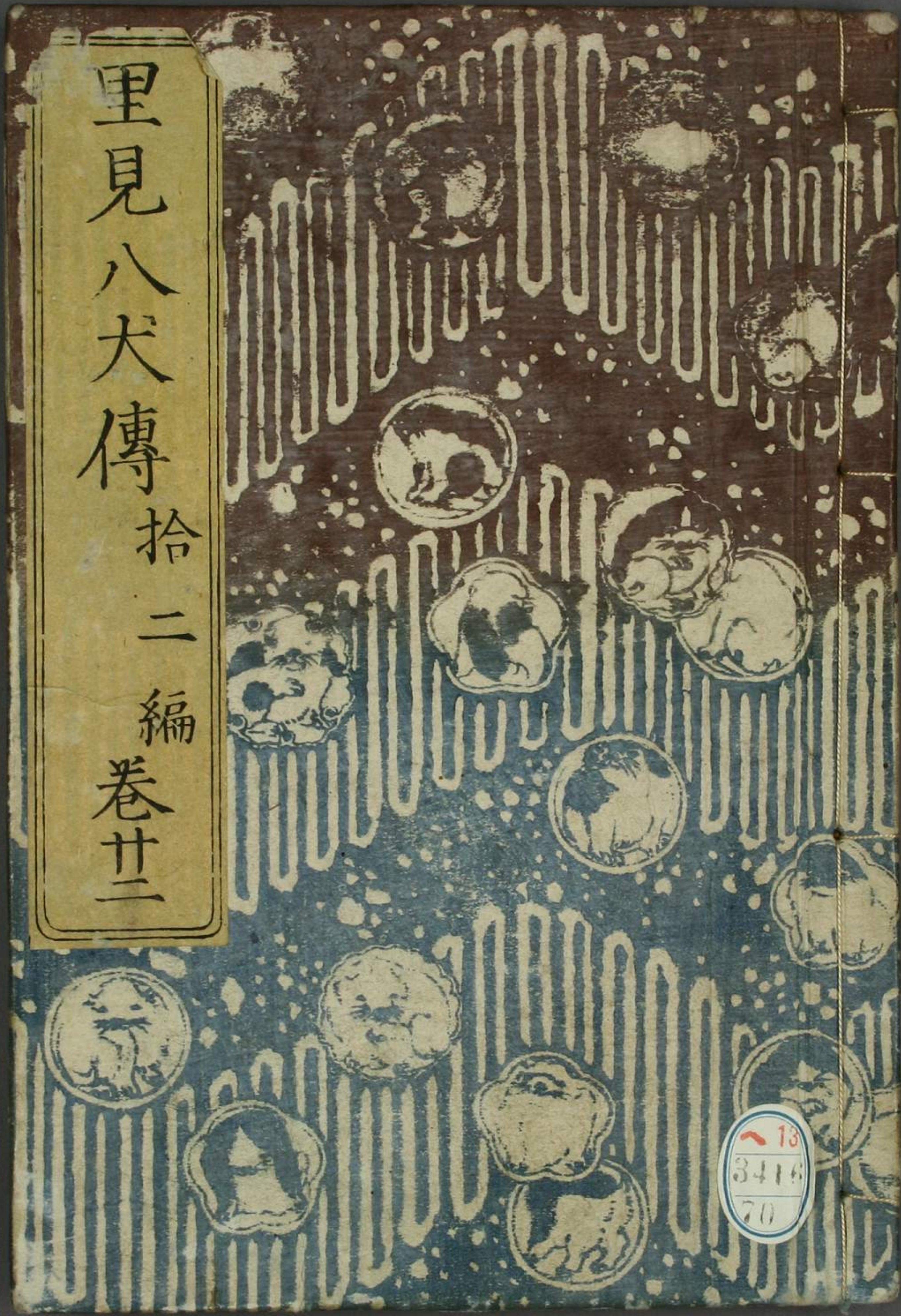




里見八犬傳
拾二編
卷廿二



夜の裏に做さしむるに似て不敬の事と免れざるは佛の教の
塵世に脱れ後を本意とて言ふるは臣僧少り一時幸ふ必死の罪と宥られ
遂に佛の入りより只報恩の爲め現世に則ち御武運長久来世に先靈正覺の念を日夜間斷
る身雲水の儘に千餘年抖擻行脚の宿望を遂げ成就して罪障恩赦の召を心して
故郷返ることを望み足るは猶寸功を賞せられて御香華院の寺職に預り國內の道俗の
尊信せられ及て本意の如く然りと知れ京師に詣り官職を請ふに開き那渡世出家の度
世の美事の恩意始る如く名利を欲せず子孫を思はず然るに死命寺の住職に做らるるに當日
より推辭せざるも義烈院殿の御改葬の支急なれば是非及ばず姑且御意に隨ふるに寺
職に久恋の園ありまは定ま浮世の法師の並に欲する大刹の住職に厭ふ況ん出家の相心か
らぬ義子を求めて何れも畢竟亡父孝吉あり昔の大功の虚くも惜く思召る御仁
もとも獨倍臣より者の姓氏の願ひは天聴と驚きも物体のいふ事最に唯

件の設計は出家の本意の如く美迷惑任はれと憚り祈るる稟を以て義実主は是まで不
原来主意違ひありと咄せり義成王に仇とせりあり義成王は之を論じて大を論し
和僧の意見は寂滅を以て樂に做せしむ即ち出家の真面目を以て以て事なれも儒の道
論を後を不孝とせしむ出家の功德より九族升天あり子孫是より断絶して先祖の
為に不孝なる世の人は是を羨んば佛説儒教の方異に佛の極樂淨土を誨え儒の則ち樂を極
むべしと教えり佛の所云樂は則ち寂滅爲樂の義也夜臺就と淨土を儒の所云樂は然る
快樂の指す所同くも又我大皇國の神の教を以て生を喜む世々を子孫相續を守ら
せぬる家はこれに不幸なりと子孫を以て或は亦生憎むるも上も其れを以て這を以て
補ひ養嗣を那家を絶つるも先祖の與ふ不孝の罪を免るべし且その宅を離散して他人の
富るの眞の理を思ふ和僧ありと云ふに年來佛法修行の身なり今も尚八土の
義父と仰れ義子と稱て世に父たるを以て羞て云々と論せり思ふるに今も尚八土の

八士之和僧の乾見ふせ。金碗氏を冒す者皆孝吉の名迹也。和僧の上中干渉らる。這談穩
 る。元欣盛言。那結城の洋西父子の忠考するも幸あらず。出家をせし子孫永く断絶せよ。亦
 天命有りとも誰を惜く思ひざらんや。上中干渉の我を思召せし。那身は他領の法師也。且影西僧
 正做登りて果報あれ。一世の福。福竭く天道盈ると缺の我を花美に樹の実る如し。和僧
 他と同く。八代氏不宿因あり。先父八郎の名迹も。和僧の與不親族あるを
 とめざることを。又今番大江親兵衛を京師へ遣ふ。姓氏の一矢の事を。知
 ぐ。安房上總の東南の隅。三方都て大洋を囊し。一箇の口も像く。困るに成る。易
 く。找を遠く攻る。難く。その故。関東諸國の風俗虚実を知る由り。况京師の志仁以來。室町
 家。武威衰へ。昔の似せざる。人の唾す。今人の光景。其る。親く。親る。あ。あ。あ。
 誰。其。是。を。知。る。然。今。番。親。兵。衛。を。京。師。使。遣。ふ。あ。あ。那。地。の。虚。実。を。目。撃。せ。よ。且
 年來の兵乱。朝廷の御料大なる。闕乏の。陽。則。犬。士。の。氏。を。金。碗。氏。做。す。欲

考。奏。請。の。一。至。れ。も。陰。火。件。の。兩。椿。事。を。兼。せ。り。御。内。意。を。和。僧。の。悟。り。只。そ。の。身
 所。を。論。を。せ。め。ん。ん。ん。ん。四。下。小。忌。人。を。明。々。地。告。し。釋。法
 語。似。て。烏。僻。を。笑。ひ。そ。る。下。下。情。示。し。大。法。師。の。感。涙。の。找。し。覺。且。恥。心
 難。あ。り。程。側。聞。者。八。代。士。照。文。亦。兩。館。の。慈。惠。忠。信。並。甘。易。々。と。兵。侶。の。感。一。費。の
 る。日。の。當。下。大。の。謹。て。義。成。王。不。稟。ま。う。短。才。法。智。不。測。り。か。賢。慮。と。否。を。云。と。論。し
 一。不。敬。の。罪。萬。死。亦。當。る。外。の。め。の。論。を。命。感。服。仕。の。臣。僧。愚。か。く。僧。家。の。祇
 律。違。ふ。と。敢。て。况。火。宅。と。脱。れ。身。を。義。父。と。せ。れ。れ。恥。に。涯。を。兼。せ。り。か。り。又。趣。を
 易。せ。せ。ん。八。代。士。を。考。吉。の。名。迹。と。し。金。碗。氏。を。冒。す。者。亦。再。度。の。仰。の。御。慈。惠。を。枯。骨。及。べ
 る。是。何。の。造。化。を。眞。加。餘。の。事。と。天。か。そ。う。感。涙。の。外。に。然。る。金。碗。氏。者。一。人。之。足。不。亦
 八。代。都。て。同。様。の。亦。御。深。意。と。ま。ま。も。凡。智。者。精。か。り。亦。室。町。殿。の。御。内。意。を
 笑。は。ら。ち。敬。篤。れ。御。計。を。思。ひ。及。ん。賢。態。を。似。而。非。直。言。以。良。も。恥。く。身。を。措。か

處るに失敬の罪を饒るるを勸解し言兼と稟あり。義成王の御代に於て義実屋敷頭を以て
 安房殿御地も計ひの御命を願ひ隨意に八士氏を冒す。義父義成子の議に閣々
 諸大夫も俱に我々を我々もて金碗氏と冒すを欲さる。惟創業の功臣に即ち孝
 與の事を抑當國郡の舊主神餘長披以光弘の實弱暗愚の本性を欲逐臣定包不裁
 せられて那家断絶する。不幸ならず光弘の落胤とせざる。愚世ありとも亦枉弱多
 病れ生涯妻妾を多し。故に大師の宿因も八士氏に金碗氏を傲まると弘世に嗣子ありて
 一世を終る。光弘の名迹は當國に送る。是孝吉の素懐也。絶て繼に廢れんと欲す
 欲し義実の本意を詳し解は神餘金碗同宗也。神餘則和名鈔安房國安房
 郡の御名の條下におをそ加無乃安萬里と訓し有は神餘の當初のものと唱し。後
 世に略稱し後又字音の便利に儘して。あやうも喚做ら然金碗の神餘也。又金鞠の
 作るも其神餘の假字を同宗と知る不足れ。その名迹一人せ。八士都て課する。皆

是同因因果の誰と二人抜出と課する。わん可憎大士は他姓と紹と瑕疵の心地を
 とりて者本と思ひ因果の當有は天命多し。知れし何んも同意ある。問せの公
 道即自餘の天も異口同様の皆答稟す。既稟上とて臣等各所生の父母の
 將軍大諸侯の御代にも名利の與他姓と冒す他人の蜚蜚を傲る。大師の御代に宿
 世ありと悟る。義成子なるも教を説く。況んは義成を能く。姓氏の一義も何んも又異議を
 左も右もも命の隨意に従ひ。亦亦言兼の義実主執して。大法師の宣す。寺主
 情願障り。内談に稍教する。和僧も亦何んも故に僧官の好とせ。改命寺の住職を以て
 辭一切らる。と誣り。大答然釋氏の教へ。食を名利の街衢に遠離を勉
 と。和漢中葉より僧官の置格式を定め。寺領坊料許す。寄其の徒の慾心。用
 せらる。魔障迷ふ法師の名利の取らる。寂滅の教を守者。早に僧愚中か。徒の富
 貴榮達を羨む。地を富山の洞窟に潜めて伏姫上の善提を吊す。思ふ事。事證の身

守。副。て。傳。へ。行。は。し。る。釀。一。七。逆。旅。の。准。備。の。旨。と。涯。り。と。ま。き。發。船。と。致。去。し。と。叮。寧。云。渡。る。信。
 而。夫。の。日。親。兵。衛。と。照。文。の。義。成。主。見。參。上。都。の。姓。ひ。と。稟。一。考。の。黃。金。並。時。服。と。賜。を。
 且。而。茶。の。禮。を。以。り。る。後。左。右。と。退。り。て。義。成。が。仰。ふ。事。を。言。ひ。親。兵。衛。の。果。て。照。文。
 と。共。信。の。旨。を。宿。野。の。宿。野。退。り。て。七。個。の。義。兄。弟。妙。真。代。四。郎。音。音。們。の。件。の。よ。と。告。知。す。代。
 四。郎。望。と。失。ひ。て。大。江。和。子。の。事。も。富。山。以。來。の。折。々。小。可。も。亦。仰。と。受。て。必。從。ひ。ひ。今。番。違。は。

知。阿。連。の。情。願。所。以。る。事。も。ね。と。倘。是。餘。日。あ。る。願。ひ。重。き。便。宜。と。爲。し。然。る。後。緩。き。暇。
 多。既。後。日。と。定。め。れ。る。舟。船。と。今。ち。争。何。ハ。艾。這。回。と。且。大。山。の。意。見。お。就。く。そ。の。め。れ。と。
 言語。齊。一。尉。れ。代。四。郎。答。を。眼。と。睜。り。て。老。方。を。り。い。ふ。も。多。朽。惜。の。め。り。一。齡。ハ。既。ハ。七。
 旬。不。遠。く。も。あ。ら。ぬ。做。り。か。筋。力。奔。走。甲。有。れ。て。ま。後。生。達。少。く。も。并。と。安。閑。と。日。と。弥。れ。反。々。
 病。者。不。身。不。使。せ。ぬ。ぬ。と。本。意。を。ね。と。ら。吐。け。も。術。も。る。大。家。笑。ひ。紛。ら。て。更。別。話。不。
 及。ひ。り。然。ハ。姥。雲。代。四。郎。ハ。嘗。晚。宿。所。不。還。り。も。心。連。の。焦。燥。で。寐。れ。ぬ。隨。不。思。ふ。我。ハ。原。是。
 微。賤。の。足。夫。大。山。主。の。舊。僕。多。不。過。分。も。兩。館。の。又。執。立。不。遇。も。多。侍。品。數。ま。ら。れ。優。不。
 宅。是。春。と。養。ひ。る。只。徒。不。坐。と。啖。多。這。回。御。用。不。達。も。あ。ら。戸。位。素。冷。と。そ。人。ら。れ。ぬ。
 登。崎。主。の。直。塚。紀。二。六。と。心。利。の。伴。若。黨。の。大。江。主。を。然。り。伴。當。り。守。の。仰。不。あ。ら。む。と。も。
 我。那。和。子。の。伴。侍。不。做。り。て。京。師。不。赴。り。て。萬。一。事。の。折。一。臂。の。幫。助。不。做。り。も。せ。伏。姬。神。の。
 神。慮。も。稱。を。我。本。來。の。志。と。致。ま。し。れ。大。山。主。の。隊。不。練。て。軍。陣。不。忠。を。盡。す。も。大。江。和。子。の。伴。不。

達て他郷を憂ふ分元も皆是館の如く先邁る身を幾まも存命て世を立んと後の
便宜を名づれば見術ありと吐裏も主意竟り決りければ親兵衛們が用船の朝時分を揣り先
たも音音曳る單節們の大江登崎の起る馬頭上を送ると偽り身装し宿所を定
走之港口不赴く尚黎明の時候して用船今日已牌と當工們が豫定めが親兵衛照
文們の登時時代四郎の汀渚を渡り船公を喚出て我の大江主の伴當必要あ
るべきを疾風の船に乗せよとの船公隨即あらる船板を架渡を卒と馳て載り
ちる是園主の軍用を二百石の巨船あり主倉前倉船後あり桅杆桅緯の堅固を舵
楫船の類大蓬小蓬百丈と一切備らざる者ありを當り船公一名舵師一名當工十餘
名艤しここに這里不在左右を程に稲村の城よりして大江登崎の伴の親兵十名許率領の
雑色們と俱に苞裏の長韓櫃幾杆炊丈役小早一港口未だ溪鼠を喚び伴の船個行
櫓物を載るとま事の紛れ代四郎の舟船荷の際に船板を息を籠と在り親兵率領

們は是を知り船公も亦ち忘れ去るねむせ親兵們の一人ありと告げりけり今程大江親
兵衛の京師へ發船の前日延由崎照文と共に我実未見参りて身の暇と稟りたる大
母妙真姥曾一家七大夫們告別て今宵稲村の城を赴きて朝延並室町家全ありを
金銀方物を受令て翌朝船に載り去る向遙け旅のあはれと妙真の親兵衛が魔鬼城
降一賊と美はる本事の心おけん哀別先度の如くぞ倒し慰めけり徳而の目信乃毛
野道節小文吾莊介現八大角們的七大夫親兵衛が與置酒御食饌と俱に起り
壽をけり登時小文吾吾金吾令抗て先親兵衛を薦てい争う仁听れ今や俱に館に仕する
美明日馬頭上を起して柳を統ね水に洗別情を盡かざりあをいませふあねがと今
戦世の悲しみの海陸共強人きて旅の客の事いと做すの並四船虫酒顛二媪内跡六
數人のさうんや和郎今番の如使の齋のあ金吾と豫る御沙汰あれとぞ小松宗
とくみぎ武勇の負むる壁言和郎の遼古景行天皇の如時武内宿禰が年十

四也。北陸及東方諸國之巡檢者。よく民を理めんとす。大功の伯仲を究神童をのりて。
 年の少くも管ののりて。城主のまじれ上は。修る大事の死使ふと。又仰付られの造化十二
 分といひ。夫天道の盈をを虧く。功成り名遂て身退る。便是天道之運莫和郎を仕
 へて。のりて久しう。されば。その及ぶ。これ。這古語をのりて。心とて。戦々兢々。と。あ。我恐
 り。事の敗れ。た。と。な。下。是。慎。な。後。諄。諄。々。傲。れ。現。八。も。亦。の。事。量。義。の。世。川。芽
 山中危窮の折。咱們の憶。犬塚。犬山。大川。大田。と。相。別。れ。て。權。且。京。師。の。在。り。程。那。里。の。公
 交りて。その氣。質。を。思。惟。る。都。會。浮。華。の。人。心。の。良。賤。並。て。尊。大。也。他。御。の。客。を。侮。り。て。
 甲。舎。見。と。の。と。喚。做。せ。も。その。人。素。の。事。業。の。富。る。徳。の。の。君子。の。わ。の。只。錢。を。欲。り。色。と。好
 と。偽。画。偽。書。偽。作。せ。る。と。も。或。の。高。名。家。の。名。號。の。紛。冒。て。世。渡。の。便。着。の。做。を。恥
 と。思。破。落。戸。も。間。更。り。況。応。仁。乱。離。の。後。道。徳。仁。義。の。地。を。拂。て。銅。臭。先。生。徴。錢。學。士
 圈。套。を。諸。生。傳。へ。よ。富。ま。の。家。の。薄。情。也。義。俠。の。友。て。田。夫。野。人。遊。女。を。見。準。ま。り。

是。流。滴。の。世。情。狀。也。錢。中。の。流。る。る。奢。侈。年。々。の。弥。増。す。故。財。用。足。り。ね。借。て。返。さ。せ。又
 貸。者。の。負。り。て。厭。と。知。され。名。利。兩。失。と。争。場。て。他。人。代。り。て。家。の。入。る。庶。民。の。貧。富。を。言。く
 是。之。の。水。上。の。所。れ。足。利。殿。也。執。り。よ。以。來。鹿。苑。院。殿。滿。驕。奢。の。用。途。に。普。廣。院。殿。教。を。至
 して。甚。く。今。東。山。殿。の。世。子。や。と。壞。舌。既。不。極。の。然。都。會。の。食。言。言。く。賤。民。美。味。の。あ。ら。さ
 ず。啖。を。不。節。廉。恥。は。方。絶。て。と。欺。て。錢。を。獲。得。せ。人。羨。も。才。子。と。稱。え。巧。不。佯。て。人。を。倒。す。
 甘心。く。家。傑。と。是。よ。賤。上。下。の。分。を。威。力。の。者。上。を。尅。錢。の。者。非。も。理。と。此。東
 山。殿。上。一。人。の。御。ろ。ろ。と。都。下。は。良。賤。並。て。皆。這。惡。風。俗。の。做。れ。る。中。も。尚。馮。了。當。將。軍。義。尚
 公。の。及。青。年。の。り。ま。せ。も。賢。明。の。の。且。父。東。山。殿。の。風。流。の。驕。奢。の。微。り。あ。ら。は。善。政。と。行
 して。恢復。の。御。志。日。夜。研。究。表。の。の。政。長。山。田。氏。細。而。管。領。俱。先。世。の。威。福。の。做。を。忠。と
 補。佐。も。東。山。殿。の。亦。思。ひ。の。隨。ま。る。こと。當。將。軍。義。尚。儘。一。の。才。不。軍。旅。の。の。ま。れ。蕙。蘭
 芳。か。つ。む。と。欲。ま。れ。も。秋。風。を。破。る。不。似。と。和。殿。の。を。を。の。の。那。每。の。欺。詐。豪。奪。と。御。ま。り。

危うく云孔子の語道と和殿萬事の神々多伏姫神の示現也知ざる多素より臨
 機応変の才匿下はあられに而館の憑く思召さけを信道なる賢達なる意見の要るに教言
 多し智者の千慮の一失あり愚者の一得あり小父公の教諭を心に占て愆を讓りぬいと示
 志親兵衛の所て小父公並大飼王の示教実千金古の有道者の人を送る言をせしむと
 多の多のいひに而教共肝胆銘と忘れぬと心なれ信乃毛野道節其れも大用各餘
 談書々俱ふ益と献酬と一霎特別惜り有り程照文の若黨直塚紀云を
 親兵衛を催促と稲村へ参る時分宜と報ふ親兵衛と遠く七六未告別と給僕の丙
 中両三名稲村を従ひ参る身装し立止却照文と共侶稲村の城へ参り辰相清澄
 面談して兩管領政長呈書一通並貢獻の金子禁裡御所へ千両室町殿へ千両東山殿
 へ千両西管領へ白銀各五百兩の餘榎家槐門諸司百寮へ金銀土宜の人情多し徳而當
 城の有司們這件々の上坐安排都て目錄の援合と二十箇の長韓櫃の斂め親兵衛の

遞與けり是より親兵衛と照文の饒を賜りて當廳の止宿許る南船の明己の初刻
 潮候風信共宜ゆと船公稟する伴當夫役下知せる従事の上下九十餘名の内
 中親兵衛の伴當究竟の夥兵士名雑色奴隸名又照文の伴當十名長韓櫃の率領五名
 夫役六十餘名徳而の皮果敢多明て主僕の早飯果と隨即員調の長櫃横須賀の
 程遠く船の港只拾を親兵衛並照文主僕も推續して船に乗る由田親戸賀九郎逸
 時と吉屋八郎景能の両家老訴へ免許を經て俱港口まで送りける他們は親兵衛の受
 たる恩義我れに之餘の餘田も稲村も私の旅を助發船を憚りて送る者多し折々
 追風より船が隨即真帆颺て去る日相模灘十數里を安の走り伊豆の下田の舟の舟
 程の親兵衛の夜泊の徒然と慰難て照文と甲乙の噂を多し語次那田親吉屋を今朝巷
 口まで送りし甚麻を燃雪昨日の今日も若未他咱們と同船と京師へ多く欲せしが
 大山も自餘の義兄弟も多し禁り恨も多し詞を託ら代四郎孫



乃亦未渡波
 の石も志摩の
 ひろくちあられ
 小計程
 玄同



儀の如く計ひ代四郎の法度と犯して及て違法の祟る義成主代四郎が老て且健身今番も
 京師へ後事の加役と發奇特と思召しよる折をゆき然道節小文吾們信乃毛野莊介現
 八大角も件の内意と兼りて誰か感佩せざる大家俱ひひけり。今も下西君侯の仁慈慈母
 勝りぬ。君の如く事あり折命と捨て報恩謝徳不足さるべし。稱を軀て音音們不
 件のうと報知先音音們は。曳手單節も感涙坐吐る。俱も君所の方小向ひて伏拜と又伏
 む。然に涯りる。當下音音們道節と小文吾們談き。大江の大母御も親兵衛主代四郎と
 船もち乗せて。終京師へ伴ひ。實事る。怠慢の罪を。思ひ過る。額を病
 まで。ま。在。走。那。御。仁慈。秘。事。を。大江。の。刀。自。知。事。も。け。る。あ。る。信。と。同。道
 節。あ。ま。井。を。勿。論。の。事。を。告。て。安。心。を。許。共。音。音。們。の。背。門。の。方。も。妙。真。の。宿。所。の
 卦。對。面。で。件。の。首。尾。の。箇。様。々。と。具。示。其。妙。真。由。真。愛。を。轉。せ。然。夢。と。ま。り。驚。く。ま。で。不
 思。ひ。る。是。兩。館。の。天。地。ひ。く。御。恩。と。且。感。下。且。ち。仰。信。折。も。倒。脆。は。老。女。の。涙。案。下。再。説。介

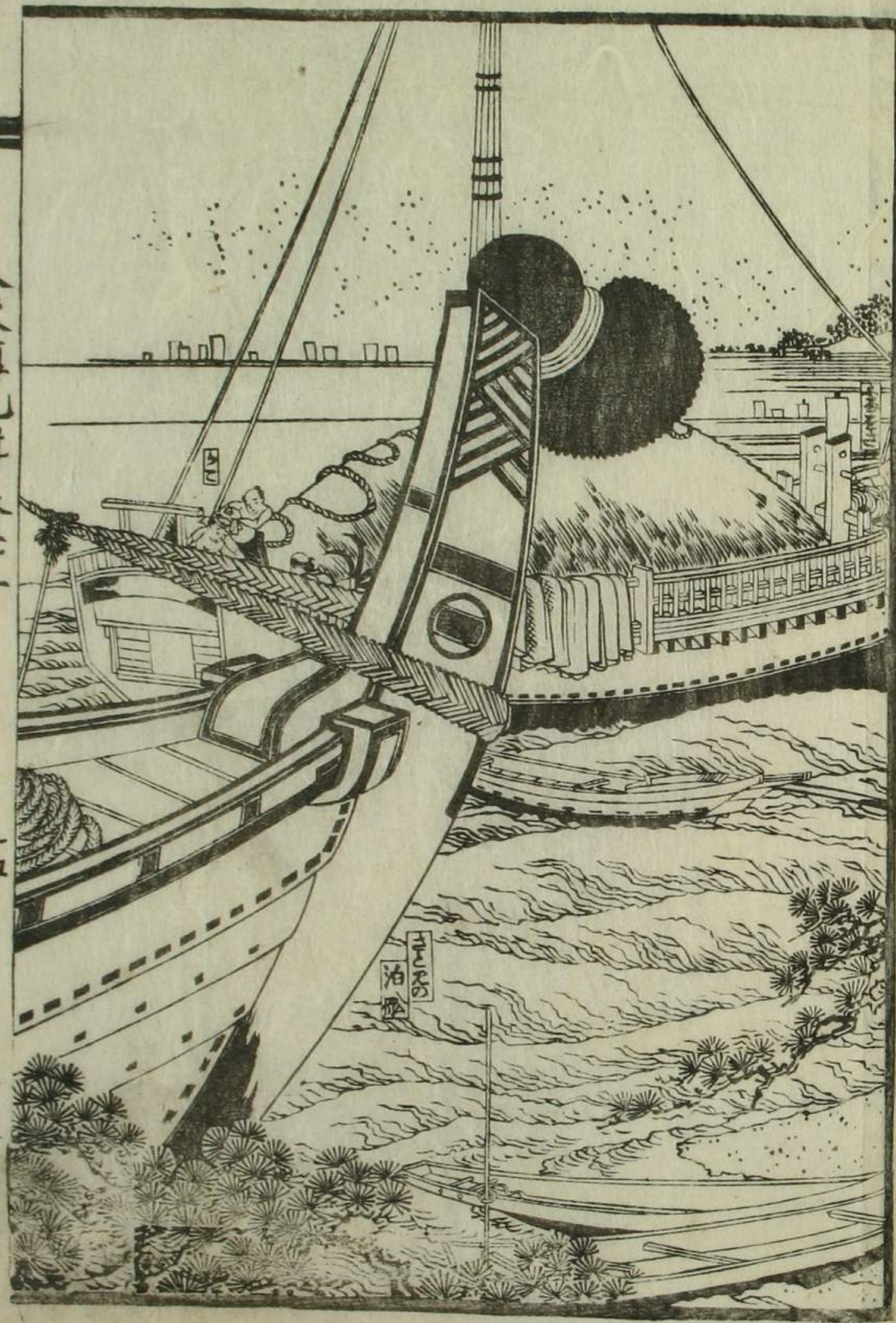
程大江親兵衛們が乗る巨船下田の港口一々歌り。又西音の程遠江灘をち過て三河の
 洋を走る折風。極可吹暴れて危なる。は。高。松。師。們。相。罵。力。を。勅。一。兩。拵。れ。船。と。奇。子
 崎。河。小。敷。巻。住。り。の。時。七。月。下。旬。な。れ。朝。夕。冷。熱。定。む。遂。小。連。雲。林。の。一。船。と。道。を。免
 便。着。る。一。人。み。み。旅。泊。の。徒。然。堪。も。道。里。伊。勢。志。摩。の。商。船。の。東。海。へ。赴。折。必。船。歌。を
 港。口。に。れ。昔。昔。泊。船。難。う。と。あ。り。馬。頭。上。十。餘。許。の。間。土。妓。道。女。と。言。客。店。の。ら
 る。酒。肆。餅。師。種。々。の。經。紀。兒。輻。湊。な。り。小。應。仁。以。降。諸。國。の。蝸。角。並。蜀。の。閨。戰。間。断。る
 くて。兵。乱。十。箇。年。の。程。名。邑。都。會。も。荒。果。て。狐。兔。の。栖。る。所。稀。然。此。道。奇。子。崎。も
 昔。以。て。船。を。伯。船。ま。り。港。口。の。町。跡。も。今。絶。五。六。箇。の。發。見。の。逢。屋。九。あ。る。の。故。か
 日。更。か。て。這。里。風。と。な。る。船。中。酒。と。餅。を。買。ま。欲。夫。陸。小。登。り。七。路。遙。る。原。原。奥
 郡。の。ま。り。求。る。と。は。の。り。信。亂。離。の。世。の。あ。れ。の。折。奇。子。崎。小。鐵。猫。と。宿。て。啜。存。效
 等。船。と。の。親。兵。衛。們。を。除。く。外。二十。石。許。の。一。艘。の。運。艦。這。港。口。に。在。り。其。の。名。鳥。登。石。の

浪舟水際の松木敷糸れ。奇き波濤の揺動の眼をさめ、雲と水音响る者。松
濤の外、絶て尉さ。親兵衛們が伴當主役の、高工們も俱に徒然と堪難
非如幾町もとも、奥郡赴て酒を餅を買て来て志ある者、銭をかせと空言を親
兵衛守てその名を許さ。今もあれ、風を這里に在、船も益る口腹を會りて、那里
いんとある。一個も離散さ。と詞緊く、誠れ代四郎紀三六あつて、皆高工主役們を制め
か、大家望と失ひて、但勤々と咳けり。休而、次の日の亭午時候も、天をさぐる雲、夏秋暑
猛可、潮水と前て、大洋此の波濤もさけれ、高工柁師們皆、今宵夜立の旦、開必追
て、風をさす。と、橋と推建、帆綱と執て、船の準備を、身程、奇像も、一個の武士、頭粉、鏡
塗の戦笠と、戴れ、身、緑線の麻衣、蕉布の野袴、穿て、紅鞆の両刀、跨、右、小日鏡、平、
握持て、野兵を四五名、従へ、馬頭上、立、在て、其首、歌り、船、毎、是、那、國、の、經、紀、見、せ、
仔細を、示、さ、し、多く、稟、せ、と、嘆、り、けり、看、官、及、て、訝、り、向、這、武、士、は、誰、ぞ、や、并、る、復、下、の、面、解、む。

第百十回

客船と哄へて水寛鬼酒と沽る
波底に没きて海龍王仁を刺んとす

却説那武士水際小立て、聲高き、喚り、向へ、泊船の内より、船公、一個の漢子、邊り
逢を、撥、抗て、船、小、跪、て、件、の、武、士、に、答、さ、す、是、は、伊、勢、の、鳥、羽、も、ま、鎌、倉、積、送、る、商、舟、也、
何、者、の、御、要、と、向、復、き、件、の、武、士、は、若、們、の、知、道、近、曾、海、賊、這、荒、漢、の、船、に、寄、せ、
便宜、張、り、夜、艾、の、渡、海、の、船、を、渡、り、任、り、載、る、者、を、人、を、屠、り、資、財、を、奪、り、不、良、の、風、聲、分、
れ、是、も、我、君、侯、當、國、奥、郡、の、一、城、王、都、尾、判、官、伊、近、殿、の、仰、を、奉、り、田、原、片、瀬、大、津、より、山、
田、津、江、中、山、荷、子、の、諸、浦、に、檢、察、せ、て、那、賊、船、を、穿、毀、者、也、然、れ、我、の、緝、捕、の、頭、人、都、尾、
殿、の、御、内、也、然、る、兵、あり、と、知、れる、設、良、四、九、三、郎、綾、丑、是、若、們、稟、ま、差、錯、る、先、々、船、を、
展、檢、ん、乘、隊、の、半、廢、幾、名、ぞ、と、向、答、せ、然、れ、擔、王、船、公、高、師、方、位、師、共、十、餘、名、い、り、
舳、擔、ハ、則、地、方、の、名、物、塩、藏、の、鯨、肉、二、百、樽、海、鮫、油、三、百、樽、打、鯨、絲、裙、帶、菜、海、藻、也、

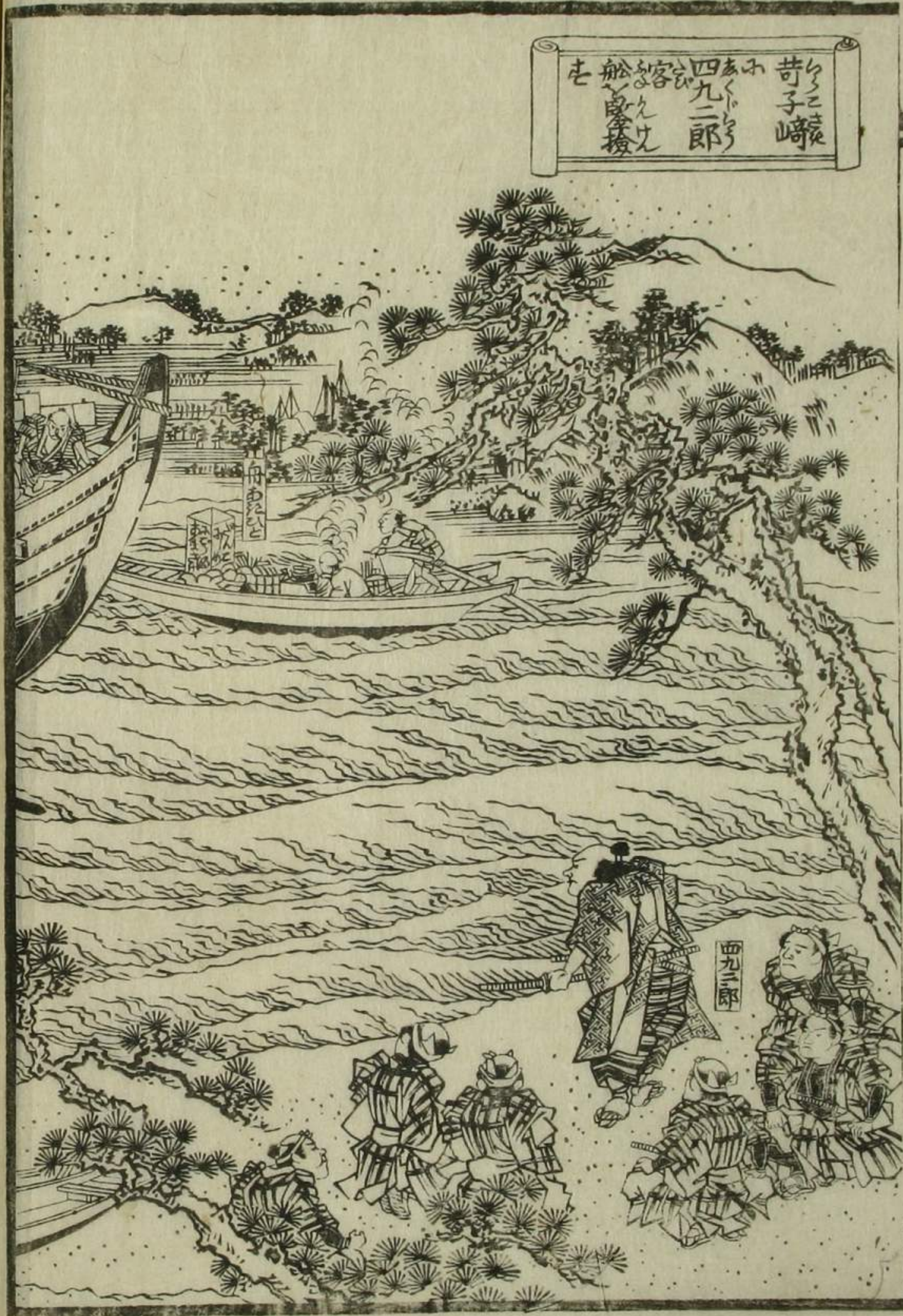


八代傳九郎卷五

十五

大坂守五藏

舟子崎
西九郎
船客
舟子



八代傳九郎卷五

大坂守五藏

くいつく回西九二郎の水際、扁舟うち乗れ、野兵も都て従ふる中、一個の眞昼敷を解
いて、漕船の件、商舟の遺邊へ寄せ、西九二郎の舟に、横に駛りて、乗移りて、従、野兵、西四名、下
知、と舳櫓を展、檢るふその、さう、あ、合、疑、くも、あ、あ、あ、大、緊、檢、く、ち、點、頭、好
好、若、們、の、障、り、を、幾、れ、隨、意、船、と、容、と、言、示、し、又、故、の、扁、舟、うち、乗、り、杆、を、操、し、更、ふ
又、大、江、親、兵、衛、の、船、の、舳、前、漕、着、き、若、們、の、乍、廢、那、里、の、船、を、向、ひ、紀、二、六、あ、る、て、舳
頭、不、立、出、ち、向、ひ、て、是、は、安、房、の、稻、村、の、浪、花、赴、武、家、の、船、を、殊、多、く、の、い、は、せ、と、報、を、四
九、二、郎、の、少、あ、ま、安、房、の、稻、村、の、浪、花、赴、武、家、の、船、を、殊、多、く、の、い、は、せ、と、報、を、四
る、も、他、領、を、犯、し、て、遙、け、浪、花、赴、武、家、の、地、々、の、城、王、地、頭、へ、豫、よ、通、達、し、て、路、を、借、り
免、該、る、ふ、その、毛、を、た、艦、心、を、私、の、問、答、を、ま、王、君、並、の、咱、們、の、姓、名、所、役、の、受、け、れ、る
え、這、船、中、の、人、數、舳、櫓、の、多、寡、東、西、展、檢、て、案、内、を、せ、と、權、威、を、示、し、と、言、高、き、る、聲、
苛、め、鐵、猫、の、綱、を、携、り、と、船、を、乘、移、れ、野、兵、の、續、て、船、廳、へ、稠、入、を、せ、程、代、四、郎、と、ま、く、立

出、て、制、も、止、ま、り、置、き、と、役、義、を、安、理、不、盡、多、言、果、べ、う、も、あ、ま、れ、親、兵、衛、と、照、文、の、只、得
野、兵、を、從、て、出、し、俱、の、後、倉、不、在、の、登、時、照、文、の、四、九、二、郎、の、向、ひ、て、人、々、且、鎮、り、の、酒、家、の
安、房、の、里、見、の、家、臣、登、崎、十、二、郎、照、文、と、喚、做、を、着、せ、い、今、番、所、要、の、事、あり、浪、華、赴、武、家、の、渡
海、の、船、風、雨、不、縁、て、這、港、口、に、權、且、鐵、猫、見、を、宿、老、の、三、疑、を、疑、者、あり、あ、る、と、名、生、る、と、所、を、
四、九、二、郎、の、眼、と、睜、り、聲、苛、立、て、非、如、里、見、の、家、臣、也、戰、國、割、據、の、世、に、生、れ、て、逆、旅、の、常、例、
あ、る、と、知、り、前、中、の、い、ひ、と、る、が、外、藩、の、陪、臣、封、疆、と、踰、て、遠、く、他、郷、へ、赴、き、其、地、を、鎮、主、と、告、
路、を、借、る、免、該、る、ふ、その、毛、を、た、艦、心、を、私、の、問、答、を、ま、王、君、並、の、咱、們、の、姓、名、所、役、の、受、け、れ、る
友、の、を、り、ん、や、海、賊、緝、捕、の、君、命、と、稟、て、點、檢、せ、る、も、あ、ま、れ、其、罪、免、れ、と、り、今、觀、面、不、行
裏、と、皆、啓、し、て、虛、実、を、知、り、其、里、退、き、と、稟、す、ふ、刀、の、反、打、り、十、多、と、抗、て、諛、を、親、兵、衛、冷、笑、
出、て、四、九、二、郎、は、打、向、ひ、て、噫、咻、や、和、主、誰、と、問、せ、も、果、實、緊、と、疾、視、て、原、來、這、奴、の、抹、惚、し、る、衛、不
具、名、告、る、我、の、當、國、渥、美、の、郡、領、鄰、尾、判、官、伊、近、主、の、兵、頭、設、良、四、九、二、郎、緩、丑、る、を、と、ま

三里まれば及て保養の事。趣理の事。七ひれ。代四郎。一談及之。諾
身装と出せ。當下親兵衛又の。時宜。時宜。王宮の勢。神龍
靈龜の自在。水。離る。蝦蟇の為。苦。況。今。世。人心。裏。非。常
備。後。悔。其。首。不。達。之。難。色。夫。役。我。我。伴。當。俱。船。橋。上。情
語。示。照。文。答。并。故。之。勢。及。疑。代。四。郎。首。之。汪。共。侶。
四九三郎。向。以。所。望。不。儘。我。們。主。僕。領。王。御。館。一。案。内。を。憑。ま。ら。れ。て
四九三郎。怡。悦。又。堪。然。之。伴。仕。人。之。期。と。推。し。船。舟。乘。得。れ。ば。從。隊
兵。四。五。名。の。中。一。個。杆。と。操。り。水。際。返。り。小。程。這。方。の。高。工。門。八。溪。鼠。の。耳。聲。を
鮮。緩。め。と。接。搭。船。板。之。那。這。架。渡。之。照。文。之。代。四。郎。紀。天。以。下。の。伴。當。親。兵。衛。十。名。と
從。て。船。上。出。て。船。板。之。傍。に。濱。邊。赴。く。程。小。宰。領。夫。役。高。工。門。之。比。徒。然。堪。れ。ば。美
ま。は。散。動。り。指。揮。之。照。文。の。後。跟。り。出。て。親。兵。衛。喚。り。制。之。照。文。們。去。回。の

安危。心。許。り。思。ひ。既。不。と。船。在。者。殘。り。寡。く。り。時。親。兵。衛。や。と。鼓。其。被。く。若。們。然
ま。自由。之。今。上。程。之。感。這。船。之。捨。て。我。以。び。小。漫。小。と。寄。り。と
宰。領。夫。役。船。公。高。工。出。後。れ。る。者。二。十。餘。名。の。一。言。不。加。け。り。出。る。中。之。咳。け。の。小。程。中
時。移。り。未。の。刻。過。か。浦。風。性。横。日。刺。き。秋。の。暑。熱。の。身。瀕。多。推。禁。れ。高。工。夫。役。の。銷
難。今。日。八。只。人。を。恨。も。身。を。不。誤。待。回。の。久。方。書。寐。の。枕。徒。起。て。坐。て。姥。捨。山。の。月。の
ら。小。尉。の。中。倉。の。方。指。さ。て。親。兵。衛。情。地。識。り。も。折。り。忽。然。と。一
葉。の。扁。舟。漕。浮。め。浦。邊。迄。來。寄。り。之。是。別。船。を。這。奇。子。の。泊。船。或。釣。き
番。家。舟。の。煎。茶。醴。濁。酒。を。好。不。儘。く。賣。り。と。并。が。船。梢。更。件。々。と。寫。着。る。短。茶。の
是。則。招。牌。之。船。を。操。り。東。西。と。賣。り。兩。個。の。漢。子。船。在。の。妙。音。高。く。喚。り。出。る。御。存
知。下。傾。酒。屋。上。五。郎。下。の。恥。覺。一。片。盧。茶。助。飲。之。團。子。の。醬。豆。一。夜。釀。め。大。白。醴。酒。又
上。傾。の。客。人。之。須。師。の。茶。蔭。非。濃。酒。脚。踏。之。章。魚。の。脚。身。刺。蛤。も。召。れ。召。れ。と。諄。復

技の世に渡る奸賊を知り足れり始りて我を疑ひあききし心届て底深く謀らば
 たるん悔いさし然るをも我衆人の安危誰何とちを勝の方公高工柁師丈役雑色
 伴當甲し都て二十餘名或醴濁酒二碗三碗喫ぬるを錢を出して還すあり茶碗に残る醴を
 指してさうさち仰て嘸て茶をさふあり程大家猛眼を睜り俱に嘯る口中より流る涎を
 ぞ齊き撞と仰反仆れて死活も知ざるあり親兵衛を是を覩て今故京暇る且海賊們が
 色どおまをせ艾術あをせと尋思と共侶を酔倒れる面色を脚を伸ら中倉を柱背に凭
 るて両手を張て仰反す當下一個舟經紀の衣領を來一叫子と食ふて吹鳴其泊船を撞
 柄て頭れ強人毎甲乙約莫十餘名錨綱を解架七船と這方漕をけり并が中頭領をかか
 一個の老賊も角弓を推る舟經紀を打捨る兩個の小嘍囉も向て豫謀合せどこの這
 個船の安房の里見が京師遣を使依せ數千両の金銀を載るうと知りし後と跟々左と右
 中謀りて既も恁十二分を造化の皆若們が挿れあふ那猴子奴の年小似げたる才剛て替力も

亦九庸をねがはざる敵もあつた倘那奴の一人柄を作て飲ま食み射て倒さと思ひ那奴も
 漏れし像の如く酔倒れる首尾妙之快航担運提よとられて兩個の小嘍囉の鼻蠢めり合
 笑て然之那後生奴始り疑て事成るもあつた辛くも段と旋とて稍這田地の境の大功の
 誰かも譲るべし分賊の心して割とゆるるが卒然と先馳せ大家續は誇自重見の船
 乗程れ自餘の海賊十餘名身を跳ら推續し勝臥る當主夫役們を蹂躪し鬼を知らぬ金
 必中倉の船底をさすむきぬ出せぬ馬と齊く網合船廳を親兵衛岸破と身と起と耳と
 貫く聲高き這渡兒們何來来る下司と鈍く謀れられ仁と倒れん天四訓思知を馬
 る勢い四下と拂て背より組む小嘍囉唯兩個を左右小掖肩被せやと聲をて投り於腰骨打折れ
 云とさうの平張る那兩個の假經紀も一個の水鬼柄杓九郎又一個の灘渡破船と嘖嘖する火
 家の小頭領をけ衆賊齊一胆と淺と原來那奴醒る非如萬夫の勇ありも一個の敵を怯れ
 ると勢を漲る歩場と掃り短鎗長杆朴刀六七尺身細楫を振内わくて較るを競ふを親兵

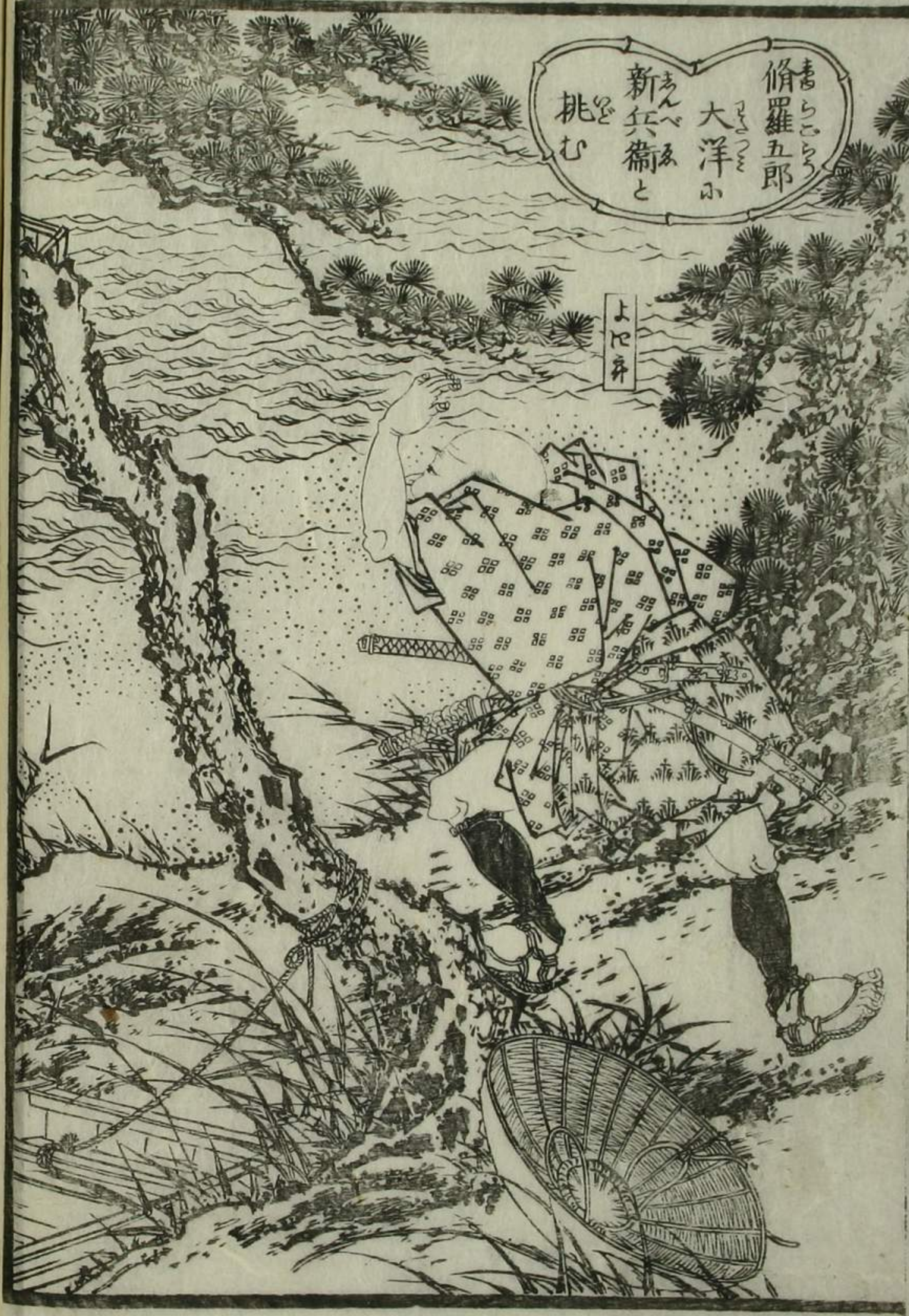
衛撓を一個の賊徒の楫を奪つて并維什を修煉の剽姚逆宗前より或矢庭小撻什を或洋に
 放下されし品を頭を推せ免る者有り程小頭領と有り一箇は老賊の既を
 小嚙囉們の親兵衛と有り儘るを隙に逸早那身船底に潜り入る定竊出る一箱一箱は
 抱きて出て來り船頭小喜身を跳らして己が扁舟を乗ると船を推建て逃んと
 志すそ其奴をねど刀を採て帶り船頭小喜を及ぶる二箇許水を隔て扁舟の
 乗る飛鳥の勢に在昔八嶋の閉戦の船八艘と蜚踰る源九郎判官も徳を思武術の精妙
 敬馬に慌る老賊は只得船を棄相逆て腕腕捉てそと組む親兵衛謀を腕と振解帯を
 抓て横を小探倒え角へも他も亦本事の剛力雙の敵敵を左右に操り倒され全身珠
 成を汗を流しと命を涯に小撻あけり故を遠老賊の海龍王脩羅五郎と喚做る原是築石の
 海賊之武勇ハ伊豫の純友なり第二做を遠るぐ放力ハ金山左衛門も必之會を避るを
 然四國の諸浦を今純友查勘と喚做る巨盜共侶小嚙囉二三百名と相聚合四國九

別を横行く或は御の豪民富商を脅又或は渡海の商旅小禍と船を沈め貨を奪ふ
 尚も船中人を弓箭鐵砲の武備あり敵に遇ふ時宿計を舟經紀を偽りて哄誘し
 陀々花と喚做る毒を喫し其人を昏倒して所従の貨財を奪略を今日親兵衛們が船の如
 まの事那地を隠れり西海山陽兩道の城主探題より緝捕の軍兵を遣てその巢を破り根
 断り誅伐限も有り脩羅五郎查勘太の折る下の小嚙囉と大々を討捕られ殘黨
 と俱命を免れ船を伊豆相模多海濱に寄輟れ姑且便宜と現る海相從小嚙囉七八
 十名をわりの有信の脩羅五郎查勘太の今番里見の使者大江親兵衛仁們が京師赴
 く渡海の船に金銀多ありと知れ跡を跟り苛子崎の件の陀々花の妻をとり
 謀りて茲不及を生拘られ小嚙囉の招りより任る死をのち後小嚙囉の問話休題小程
 大江親兵衛の件の扁舟を趕稠る海龍王脩羅五郎と只一抓を捉拘を思ひ悔り一思ひに他
 剛勇勅力劣る本事ありれば果敢る組も伏せ然れど親兵衛も克死敵をるる



八尺傳九郎

サ田



喜らこら
脩羅五郎
大洋小
新兵衛と
挑む

よた

八尺傳九郎

サ田

